

聖和会報

平成 20 年 3 月 17 日発行
第 34 号

発行所 聖和会 学生会
徳和 (047-365-1200)
Eメール: seiwakai@seitoku.ac.jp



平成十九年度 役員・支部長研修会を 熱海にて開催

昨年七月七日(土)・八日(日)の両日、
聖和会役員・支部長研修会が静岡県のリ
ゾービア熱海にて行われました。

今回は海沿いの眺望のよい宿泊所が研修
会場となり、東京、千葉、茨城、埼玉、神
奈川の他、群馬、長野からも役員・支部長
が集い十五名の出席となりました。

十六時半より役員会が開かれ、十七時よ
り役員・支部長研修会が開催されました。
加藤会長の進行で議事が進められ、現状の
報告や、次年度の総会のことについて話し
合いが行われました。また学園創立七十五
周年記念事業募金募集協力について協力の
お願いがなされました。その後、各支部長

より支部の現状及び学生の学習相談に関す
る対応等の報告が行われました。在学生か
らは、就職に関しての質問や、レポートの
課題選択の方法や、ピアノ指導に関する具
体的な質問が寄せられているとの報告でし
た。

引き続き十八時から懇親会が開催され、
役員と支部長が親しく親交を深め実りある
研修会となりました。翌日は朝食後に散会
となり、次回総会での再会を誓って宿泊地
を後にしました。

●平成十九年役員・支部長研修会出席者
(順不同・敬称略・カッコ内卒回数)

- 加藤敏子 (3)、大手ミツ (3)、西内好子 (3)、伊藤幸子 (4)、松原ミチ (5)、三浦瑛子 (9)、河野暁子 (10)、小林康子 (11)、安中栄子 (11)、山川好子 (16)、横田友江 (22)、海老原啓子 (6)、小口昭江 (11)、平部千代 (11)、清野美代子 (14)





平成 19 年度聖和会役員・支部長研修会
(平成 19 年 7 月 7 日・8 日 於：リゾートピア熱海)

役員支部長研修会に参加して
第十一回卒 平部千代
去る七月七日(土)・八日(日)の両日、
聖和会役員・支部長研修会が熱海市の「リ
ゾートピア熱海」にて行われました。
役員十一名と群馬・埼玉・茨城・長野か
らの支部長と合わせて十五名の出席者でし
た。あいにくの曇り空でしたが、部屋から
は一面の海が見渡せ、磯の香りもたよう
リゾート地の雰囲気いっぱい宿でした。
十六時半より役員会が開かれ、続いて
十七時より役員・支部長研修会開催となり
ました。加藤会長の進行により議事もス
ムーズに進められ、各支部長より現状報告、
学生の相談対応の報告が行われました。「高
齢になって通信教育で資格取得しても、勤
め先がありますか？」などの就職先の不安
等の質問などもあるようです。少子化の時
代で現状は大変厳しいものと思います。し
かし聖徳で学んだ「努力、苦勞、最後まで
やり抜いた達成感、喜び」は、実益ばかり
ではなく、その後の人生の大きな糧となり
宝となって残ることは確かです。
「聖徳通信」も四月号よりA4の大きさ
になり勉強方法、スクーリング、科目試験、
本学組織等、より詳しく読み易くなりました。
全学共通の内容で、勉学においても刺

研修会に参加して

第六回卒

海老原 啓子

今回の支部長研修会は、記憶に残る？
二〇〇七年七月七日の七並びの日でした。
この日は地域でのイベントも多かったよう
で、支部役員の方の参加はわずか四名と寂
しかったです。また、会場予約もさぞ大変
だったろうと幹事さんと事務局の方々のお
骨折りに感謝感謝です。これまでは山の緑
に囲まれた研修会でしたが、今回は趣き変
わって海辺で行われました。

研修会では、支部役員から就学相談、勉
強方法、卒業後のことなどに対する問い合
わせは少なくなつたのはなぜか？と心配す
る声もありました。これらに対しては、通
信教育自体は発展していること、また質問
事項に対して聖徳通信などで、学生さん全
体の問題としてとらえて対応しているの
で、わかりやすくなつたのではないかと
ことでした。今では通信教育に対する考え
方、学べる分野の拡大、単位互換、進学動
機の変化など、私たちの時代に比べると大
きく変動しているようです。今回、聖徳の
通教のホームページに行つて見ましたが、
シンプルで分かり易く見やすいホームペー
ジですね。「良くある質問Q&A」な
というボタンはいかがでしょう。

また、いつもの事ながらレポートの書き
方、ピアノレッスンの進め方、また電話で
の相談自体が要領を得ないもの、不躰なこ
と(最近多い?)などもあったりと、ご苦
勞のようですが、皆様毅然と対応されてい
るようでした。特に、通信教育の場合は単
なる学問の修得だけでなく、その期間には
人間として多くの得るものがありますの
で、その点までも伝えられたらと参考にな
りました。

これらの点については、部屋に帰つてか
らみなさんと話しは続きました。そして、
「お約束」の、今では楽しい思い出話しと
なつた学生生活の話して盛り上がり、「シ
ンデレラおばさん達」は夜中の十二時が近
いことを知つてあわてたのでした。多くの
方と同室し、いろいろなお話しを聞き、そ
して元気をいただくことも、またこの研修
会の楽しみです。

天気予報はあまり良くなかつたので
が、翌朝は部屋の窓から沖に初島をぼんや
り見ることができました。海無し県から参
加した私としては、嬉しいことでした。さ
らにおまけは、帰路茨城支部の清野さんと
ご一緒に平塚で途中下車し、平塚の七夕ま
つりを楽しんできました。



激を受けて向学心をそそられるのではと、今の私にはとても羨ましく思います。研修会の中でも、近頃学習相談の件数が少なくなってきたことも話題になりましたが、刷新された聖徳通信の内容の充実にも起因しているのかもしれない。

聖徳は私が卒業して二十七年になります。短大から大学、大学院へと規模が年々拡大され教科の内容、キャンパスの施設面でも目を見張るほどの素晴らしい発展ぶりです。「きっと今も尚、日々新しい構想を考えておられるのでは」「又、その中心の原動力として引つ張って下さっている方はどなたなのだろう?」。私が常々思っていたことを、夕の懇親会の折、隣り合わせた事務局の方に質問してみました。それは本学園の理事長でもある川並弘昭学長です。常に一歩も二歩も先のことを考えておられ、文部科学省から最初の学校として採択される事業も数多いそうです。成功を生み出す環境を絶えず考え、次々と構想を練り実現化されているとのこと。

学長先生、教職の先生方、事務局の方々に心からの応援と、母校の益々の発展を願いながら、嬉しい気持ちで研修会を終え、帰路に着きました。

東京支部会を開催

聖和会東京支部 幹事 山本京子

平成二十年一月二十日(日)信濃町の明治記念館で聖和会東京支部親睦会を開催いたしました。

毎年開催場所に頭を悩ませますが、今年は何でもわかる場所で、でも結婚式でしか行くことがないけれど落ち着いて過ごすことができる、ということで明治記念館を選びました。参加された方は、意外な会場設定と驚かれたようですが、座敷の個室を貸し切り、豪華な和食会席をいただきながら、なごやかな雰囲気の中で再会を喜び合いました。お日柄がよかったですので、広くてきれいな庭では結婚式の記念撮影がおこなわれていて、花嫁衣裳に皆で見とれていました。あつという間に決められた時間が過ぎ、名残は尽きない様子でしたが、続きはまた来年と、お開きになりました。

毎年、参加される方が少なくなり、特に今年は何んと7人ということで残念なことはありました。出席人数ではなく、長く続けていくことが大事なことを、皆で確認しました。

この親睦会をこれからも続けていき、一年に一度皆さんから元気をもらいたいと



思っています。まだ参加されたことのない方もお誘いあわせのうえ、ぜひ参加してみてください。また、親睦会のお手伝いをしてくださる方(幹事)も募集中です。お待ちしております。

大学通信教育部に児童学部児童学科が誕生 心理学科にコース制が設けられます

この四月より、通信教育部に「児童学部児童学科」が誕生します。これは、通学制に開設されていた人文学部児童学科が児童学部児童学科に改組されることに伴い、通信教育部の人文学部児童学科も児童学部児童学科に改組されることになったからです。

これまで培ってきた「保育の聖徳®」の伝統を引き継ぎ、その実績やレベルの高さにふさわしい、スケールアップした学びがスタートします。これからの時代の幼児・初等教育を支える人材を養成していきます。

また、人文学部心理学科には「臨床心理学コース」と「ポジティブ心理学コース」の二コースが設けられます。これにより、学習内容が明確となり、目的に応じて学びやすくなります。

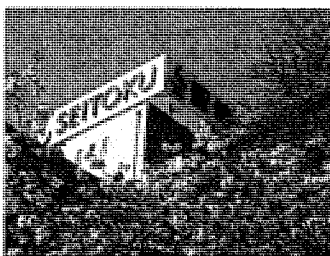
大学通信教育部で編入学生を募集

既設の短期大学部、大学院の通信教育に加え学部通信教育では、児童学部児童学科と人文学部社会福祉学科・英米文化学科・日本文化学科・心理学科の四学科を開設しております。現在、四月生編入大学の願書受

付を行っておりますが、聖和会員の方で、幼稚園一種免許や大学卒業資格を取得したい、大学の専門教育を学びたいという方は、ぜひご入学ください。本学通信制大学では、幼・小・中・高校の教員一種免許状、養護教諭の教員一種免許状が取得できるほか、社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格、認定心理士申請資格などを取得することも可能です。

平成二十年大学・短大部の学生募集

大学・短期大学部の通信教育部では、四月三十日までの期間、四月生の入学願書を随時受け付けます。お近くでご希望の方がおりましたらパンフレット・願書を無料にてお送りいたしますのでご連絡ください。



聖和会の活動について

聖和会の会員数は、現在二、七六〇名(短大部二、二六六名、大学院二三四名、学部二六〇名)となっており、その活動は、毎年会報を発行し、総会と役員支部長研修会を交互に開催しています。さらに聖和会では、会員数の多い東京や神奈川において毎年支部会を開催して地域での交流も深めています。また、聖和会員は在学生への支援もしており、各地で年数回実施される科目終了試験の試験監督を行ったり、短大部では電話による学習相談にも応じています。

平成二十年度は学園創立七十五周年の記念すべき年であり、また現在建設中のメディアセンターと図書館を中心とした新一号館も完成を迎えます。本年は総会を開催する年となっており、本学において夏期に開催する予定です。全国から会員の方々が集う賑やかな総会となるよう願っています。

○改姓、転居等がございましたら、事務局までご連絡ください。

卒業生の皆様からの原稿を集めています

平成 20 年、聖徳学園は創立 75 周年を迎えます。これを機に学園のたどった道を回顧し、今後のさらなる発展を期して、本学園の卒業生の皆様からの思い出の一齣をお寄せいただき、記念誌「聖徳学園創立 75 周年記念 聖徳学園 心の教育を構築する—75 周年を迎えて—」を作成することとなりました。学園生活を振り返り「楽しかったこと、うれしかったこと」などについて、下記執筆要項により原稿をお寄せ下さるようお願い申し上げます。

記

聖徳学園創立 75 周年記念誌

「聖徳学園 心の教育を構築する—75 周年を迎えて—」

執筆要項

1. 刊行趣旨

聖徳学園創立 75 周年を記念して、卒業生の皆様から思い出の投稿を頂き、記念誌を編み、今後の学園発展の心の糧とする。

2. 執筆内容

次の中から 1 つを選択し、執筆あるいは写真によってお寄せください。ただし、表題（タイトル）は 17 字以内でご自由におつけください。

- (1) 本学園で学んでよかったこと、うれしかったこと
- (2) 本学園との関わりで楽しかったこと、うれしかったこと
- (3) 本学園のこれからのあり方など建設的なご意見

3. 投稿方法

次のいずれかによって原稿をお寄せください。

①原稿のみによる投稿

400 字詰め原稿用紙 2 枚以内で執筆してください。文字数にして 800 字まで。文章は縦書きとなります。

②写真による投稿

思い出の写真（1 枚）でご投稿ください。この場合、写真の説明は 160 字以内でお書きください。ただし、お送り頂いた写真は、使用後学園資料として大切に保管させていただきますが、ご返却を希望される場合は、その旨を明記してください。

4. 文 体

執筆文体は「である」体をお願いします。原稿用紙は特に定めません。

5. 原稿締切

平成 20 年 4 月 27 日（日）まで

6. その他

・原稿の送付に当たりましては、原稿と共に裏面の投稿申込書にお名前・所属・卒業年度を明記の上、顔写真（裏面に名前を明記）を 1 枚、お送りください。

◎問合せ先・送付先：

〒 271-8555

千葉県松戸市岩瀬 550

聖徳大学川並記念図書館内

「聖徳学園創立 75 周年記念誌」編集係

（電話 047-365-1111 (代)

／ E-mail : kinenshi@seitoku.ac.jp)

個人情報について

本誌の執筆にあたりお知らせいただいた氏名・住所その他の個人情報は、本誌に関する出版のみに利用します。

※すでにご寄稿いただいている方には、お礼申し上げます。

平成 19 年度 聖和会役員・支部長

●支部長

(敬称略)

役 職	氏 名	卒	役 職	氏 名	卒
会 長	加藤 敏子	3	幹 事	青木 幸江	19
副会長	松原 ミチ	5	〃	横田 友江	22
監 事	大手 ミツ	3	〃	内田 京子	23
〃	伊藤 幸子	4	〃	野原 淳子	25
幹 事	西内 好子	3	〃	川並みつえ	26
〃	市村 祥子	5	〃	枝村 理佳	27
〃	物江 文子	7	〃	小泉 久子	29
〃	三浦 瑛子	9	〃	板橋 優子	30
〃	河野 暁子	10	〃	辻田 晶	
〃	小林 康子	11	〃	小澤 幹雄	
〃	安中 栄子	11	〃	浅香 計治	
〃	山川 好子	16	会 計	戸田 良典	

●役員

支 部	氏 名	卒	支 部	氏 名	卒
青 森	坂本 英子	12	山 梨	岡田つき子	13
岩 手	大沢 孝子	3	長 野	平部 千代	11
宮 城	塚野 澄子	13	新 潟	阿部 廣子	12
山 形	佐藤万里子	17	岐 阜	成瀬 政子	5
福 島	上遠野啓子	4	静 岡	大野千賀子	15
茨 城	植田 光子	8	〃	加藤 淳子	32
〃	清野美代子	14	愛 知	朝生 福代	18
栃 木	丸山 静子	9	三 重	安藤ふみ子	14
〃	稲田 孝子	13	大 阪	勝井りつ子	17
群 馬	海老原啓子	6	兵 庫	小山千世子	13
埼 玉	小口 昭江	11	〃	宇都 順子	33

投稿申込書（原稿と共にお送りください）

下記により聖徳学園創立 75 周年記念誌へ投稿します

1. 表題（仮称でも結構です）： _____ (17 字以内)

2. 投稿内容

() ①原稿のみによる投稿

() ②写真による投稿

いずれかに○印で示してください

3. お名前： _____ (旧姓)

所属・卒業年度： _____ 学科・昭和／平成 _____ 年度卒